

## 伝えたいこと 3

先週は平地でも初雪となり、師走を間近に感じる頃となりました。昨年、冬季の徒歩通学について「ココあるポイント」が提案され議論になった生徒総会が思い出されます。これまで3年生が中心となって引っ張ってきた生徒会は、2年のI.T新会長を中心とした新執行部に引き継がれることとなります。学校は、歴史を積み重ねながら豊かな文化を創造していく場でありたいと思います。

11月は生徒の取組みが広く認められるうれしいことがありました。7月の校内弁論大会から市の大会、ブロック大会、県大会、北海道・東北審査を経て「全国少年の主張大会」に出場した、3年生のI.Rさんは最高賞の内閣総理大臣賞を受賞しました。

Iさんの主張は、それを支えた学級や学年、「居心地のよい学校」を目指して取組んできた生徒全員の学校生活から生まれたことを考えると、心からうれしく思います。昨年のD.I.さんの人権作文県最高賞・全国奨励賞に続く快挙に、三中生の社会を見つめる豊かな感性と「自ら考え、正しく判断」する意識、そして自己実現に向けた強い意志を感じました。これらは全て、三中の文化として醸成を続けているのだと思います。



先月市民文化会館で開催された市吹奏楽合同演奏会では、卒業生の生き生きとした「その後」を見ることができました。一般、高校生が中心の演奏会でしたが、新しくできた高校の吹奏楽部員として、サクソをソロで演奏している様子を見ながら、自らが選んだ道で精一杯自分を生かしている姿に自然と心が温かくなりました。

そして、先週開催された「県女子駅伝大会」に出場した3年のI.Aさんと2年のO.Mさんの快走です。天童・東村山のタスキを力強くつないで順位を押し上げた二人の走りには、三中出身の先輩選手の皆さんと共に、脈々とつながる伝統の強さを感じました。才能は努力の結果だと考えると、一層誇らしく思えました。



学校の「学び」は、多様な個性からプラスの力を生み出す方法を考え、自分の生き方に生かすということなのだと思えます。

今号は、1年生の「お父さんお母さん」作文コンクールから、優秀賞を受賞した作文を紹介します。(校長)

### ★第26回中学一年生作文コンクール

優秀賞 G.Sさん 「反抗期」

優良賞 T.Jさん 「母親の大切さ」

優良賞 T.Mさん 「〇〇な父と〇〇な母」

## 反抗期

1年 G.S

十歳くらいになってくると、思春期が訪れる。体が成長すると同時に反抗期が来るということを経験した。私はこの時、こう思ったのだ。自分はそんなことはするはずがないと、笑い話のようにスルーしていたのだ。

小学校の頃、友達のアちゃんとこんな話をした。「ねえねえ、自分の親のこと好き？」と、アちゃんに変な質問をされた。私は、「うん、好きだよ。」そう返したら、アちゃんは私が思ってもいなかったことを言った。「そうなの？私、あんまり。」と返されたのだ。私はこの時、自分が言っていることはおかしいのかなと色々考えたのだ。その時、私は保健の授業を思い出した。私もそろそろ来るのかと思った。親に反抗するなんてありえないと思っていた。絶対反抗なんかしないと心に決めていた。だが、この気持ちは長く続かなかったのだ。

私が小学校を卒業する前の忙しい時期の出来事。私は実行委員長やクラブ長などの大役を務めた。その疲れが溜まり、親に反抗する回数が増えていった。親に対しての言葉が冷たくなったり、たまに無視してしまったりしていた。その後に、私は何であんな態度しちゃったんだろうとか、なんであの時無視しちゃったんだろうとか、後悔してしまうことがあった。自分が情けないかと思ったり、自分は最低だと思ったりして反省していた。

その後も学校で友達と親の話になると、自分が親に言ったことに友達は賛成してくれて、小さな悪口の話が続いた。私はこの時、心の奥で、これでいいのかなと思っていた。少し、そわそわしていた。

小学校の卒業式までのカウトダウンが始まった頃、祖母が大きな熊のぬいぐるみをプレゼントしてくれた。父からお礼の電話をしなければと言われてたけれど、その時私はイライラしていたし、宿題やお風呂もすませずに、電話をしないでしまった。そして、父にどなられてしまった。私はびっくりした。私はそのことを友達に相談したら、私の味方になってくれた。だけど、先生に相談したら、「良なお父さんだね。」と言われた。私はこの時、先生の言ったことは正しいかと思った。先生に「お父さんに謝って見たら？」とも言われた。私は、恥ずかしくて、今も謝っていない。

中学校に入学したら、小学校の時よりも態度が悪くなってしまった。このままで良いのかなと考えてしまうことが多くなっていくだけだった。両親は、私をここまで大きく育ててくれたのに、こんな態度じゃだめだと思っても、なぜか良い方向に行かない。そんな弱い気持ちでよいのかと不安になった。これからの私は、高校受験もある。不安はいっぱいある。だけど、そんな中で私を支えてくれるのは両親だ。私が、将来親になったとしても変わらない。死んでも私の両親だ。まだまだこれからお世話になる人。そんな人に反抗したりしないで、感謝しながら生きていきたい。(一部省略しています)